

まちの話題

ブラリオごおり^{はたまみち}—端間路編—を開催

「ブラリオごおり」は、地域の魅力を深く知ろうと企画されたまち歩きイベントです。10月29日に開催された端間路編では、端間駅から西鉄小郡駅までの約2kmを1時間半ほどかけてゆっくり歩きました。

ポイントで古写真と現在の風景を見比べながら、昭和レトロな町並みを散策。畑作業の手を止めて解説してくれた人や、沿道であいさつをしてくれた人など、地元の人との出会いも多くありました。参加者は「勉強になりました！」とお土産の焼き芋などを手に笑顔で話してくれました。

※次の開催は、3月を予定しています



福岡市役所のふれあい広場で小郡をPR

10月15～16日、福岡市役所のふれあい広場で、「筑後川のめぐみフェスティバル2022」が行われ、市内の4つの団体や事業者が出店しました。

出店ブースでは、七夕の里おごおりや鴨のまち・小郡を紹介しました。小郡市飲食店組合が販売した合鴨御飯は両日完売。ステージイベントの観光・物産PRタイムでは、市長が市制施行50周年のPR後、鴨まちコンテストのチケットや、叶え星文様と小郡市観光大使オリリン・ヒコリンのグッズを紹介し、抽選会を行いました。

2日間とも盛り上がり、約8,600人の来場者に小郡市の魅力を紹介できました。



第33回野田宇太郎生誕祭・野田宇太郎文学賞表彰式を開催しました

第33回野田宇太郎生誕祭

10月30日、小郡出身の詩人・野田宇太郎(1909-1984)の生誕祭が、生涯学習センターで開催されました。

野田に捧げる詩を募集する「生誕祭献詩」には、市内の小中学生から1193点の応募がありました。式典では、献詩の一席に選ばれた古賀湊士さん(立石小4年)、黒田千華さん(三国中2年)の詩の朗読や入賞者の表彰式などが行われました。

献詩の一席に選ばれた古賀さんは「ぼくは、数字が好きです。色々なものの1番を調べているうちに『2番目もすごいな、でもぼくは知らなかったな』と思いました。だからその気持ちを詩にしました」とコメントしました。

一席受賞者の作品は、ホームページで閲覧できます。ぜひご覧ください。



野田宇太郎文学賞表彰式

野田宇太郎「文学散歩」出版70年を記念し、“作品ゆかりの地を巡る”をテーマに紀行文を募集した「野田宇太郎文学賞」。生誕祭の第二部で、文学賞の表彰式を開催しました。

全国から139点の応募があり、野田宇太郎文学散歩賞に菅野健さん(茨城県、写真左から2番目)、帚木蓬生賞に春野洋治郎さん(鹿児島県)、奨励賞に5人が選ばれました。

野田宇太郎文学散歩賞を受賞した菅野さんは、『トーマス・マン全集』に収録されている、“ヴェニスに死す”“アウグスト・フォン・プラーテン”をもとに紀行文を応募。「最初に読んでから51年の今年、本賞に応募するため、改めて取り組みました。思った以上の評価をいただいた。驚きとともに、感謝しています」とコメントしました。

